



黄金町エリアの最近の出来事や今後のイベント情報をお知らせします！

地域のイベント

毎月27日 防犯パトロール (15:00黄金町交番集合)

6月 かいだん広場メンテナンス (予定)

7月2日(日) 赤英町内会BBQ大会

7月30日(日) はつこひ市場

黄金町のローカルマルシェ「はつこひ市場」を開催します。

会場 高架下スタジオ Site-D 集会場、かいだん広場ほか

詳しくは初黄日商店会のWEBサイト等で案内予定

8月5日(土) 打ち水大作戦

8月18日(金)～20日(日) 子神社例大祭

アートイベント

7月7日(金)～23日(日) 七月の壁の影

パブリックアートを中心としたグループ展

会場 黄金町高架下エリア

詳しくは黄金町エリアマネジメントセンターのWEBサイト等で案内予定

7月30日(日) のきさきアートフェア

アーティストやクリエイターのオリジナルグッズが並びます。

詳しくは黄金町エリアマネジメントセンターのWEBサイト等で案内予定

7月末～8月末 黄金町夏休み子どもバザール

アートのまち黄金町で、幼児～小学生を対象としたプログラムを開催します！

詳しくは黄金町エリアマネジメントセンターのWEBサイト等で案内予定

8月 Site-Aギャラリー

黄金町レジデンスアーティスト 小林誠一、橋村至星による二人展

ぷらり
あんな店
こな店



マッスルパック

2020年8月初黄町内会館並びにオープンした、カラダにいいお弁当を横浜中に広げたいと明るいコンセプトのお店です。高タンパク・低カロリーの洒落た看板をかかげ、それを見てお客さんがきてくれました。食べてみたらボリュームも多く味もしっかりして美味しいと大反響!! 今はリピーターも増えて遠方からも買いに来てくれます。この3月からはネットと注文のみでの販売で、店頭ではお店にあるもので対応しています。店長の小川あきらさんは現役のボディビル競技選手。今年の7月に神奈川県大会に出場します!

黄金町エリアマップ



黄金町まちづくりニュース

vol.137 2023年6月号



桜咲き、
春来りて
にぎわい戻る。

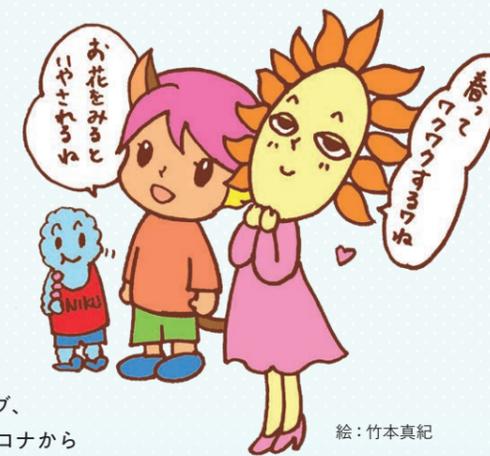


3月26日に開催された「はつこひ市場」。あいにくの天気だったが、多くの人出で賑わった。

三寒四温を繰り返しながら春の訪れを待つ中、今年の桜の開花は例年より早かったように思う。思いがけず早い開花に、大岡川沿いの桜を見上げる人々の顔は、不思議と誰もが笑顔だ。桜は人を和ませる。そして見知らぬ同士が、花を愛でて言葉を交わす。

桜が人を呼ぶ傍ら、まちでもイベントが人を呼んだ。春の「はつこひ市場」に始まり、長者町での屋台、ジャズライブ、かいだん広場でのバンド演奏、そしてコロナから少しずつ解放され花見の会が各町内で開催されたようだ。

桜とイベントで、この限界も三年ぶりに賑わいを見せた。人との交流は、まちも心も活性化する。今年はどうな賑わいが見られるだろうか。笑顔いっぱいの一年であってほしい。



絵：竹本真紀

第4回 「初黄・日ノ出町地区〈地区計画〉に関するアンケート」集計結果

〈これまでの経緯〉

初黄・日ノ出町地区環境浄化推進協議会では、初黄・日ノ出町地区を安全で暮らしやすいまちにするためのルールづくりに取り組んでいます。2021年度に行った第3回アンケートでは、それまでの経緯を踏まえ、地区計画を目指して、対象地区を絞って地権者にご意見を伺いました。その結果、地区計画の導入について回答者の9割近くご賛同をいただきました。(黄金町まちづくりニュースvol.134参照)

〈第4回アンケート結果〉

第4回アンケートでは、これまでのアンケートの結果を踏まえて作成した地区計画の案について、対象地区の地権者の皆様にご意見を伺いました。その結果は下記の通りで、ほとんどの内容について9割程度のご賛同を得ることができました。しかし、残念ながら回収率が非常に低いことが大きな課題です。

[配布回収期間] 2022.11.12~2023.03.31 [対象地区] 右図参照 [有効回答数] 77
[地権者総数に対する回収率] 77/335=23.0% [配布数に対する回収率] 77/254=30.3%

今後の進め方

このような回収率の状況では次の段階に進むことが難しいため、少し時間をかけて、地域をあげて地権者へ働きかけるための意識づくり、体制づくりを行うことが必要だという結論になりました。皆様のご協力をぜひともお願いいたします。



今年の2月から3月にかけて、黄金町エリアマネジメントセンターでは、【Artist's Network FUKUOKA2023】と題し、福岡のアートシーンを紹介する展覧会を開催しました。本企画は、会期を二つに分け、第一部では、1970年代後半から80年代にかけて福岡のアートスペース「IAF芸術研究室」に集い表現活動を展開したアーティスト5名を紹介。第二部では「ニュー・ニューウェーブ・フクオカ」という副題のもと、1980年代以降に生まれ、現代の福岡において新しい表現の波を生み出し続けているアーティスト5名+1組を紹介しました。ここでは、第二部で発表された作品に焦点を当てた展示の報告をいたします。



Artist's Network FUKUOKA 2023

しまうちみか

しまうちみかは、site-Aギャラリーの壁一面に、テラコッタの焼き物、コラージュ作品、イラスト、既製品などを配置した。映画のスターウォーズに登場するキャラクターを思わせる焼き物や、日本の地方の祭りの写真を使ったコラージュ、あるいはコケシなどの既製品がその存在を互いにぶつけ合うことなく同一空間の中で共生している。その様子は、あらゆる物事をミックスすることで築き上げられてきた日本の文化そして日本人という存在自体のメタファーでもある。



『My Alter (私の祭壇)』2021-2023/テラコッタ、青森の土、紙、アクリル絵の具、コラージュ、既製品等

遠藤梨夏

コーラにメントスを入れた際、勢いよく泡が噴き出す「メントスコーラ」という近年YouTubeなどのネット上に公開されているいたずら動画をメインのモチーフとしながら、性をめぐる社会と個人の軋轢や記憶に言及した遠藤梨夏による映像インスタレーション。女性だからということが理由で成し得なかった小中高の学生時代のネガティブな個人的記憶の数々を、メントスコーラという社会的な事象が繋いでいく。



『ほぐし水の三重でピボット』2023/ミクストメディア

近藤拓丸

3DCGソフトを使い、夢、過去の経験、旅行、小説、詩からの引用によってオブジェクトを造形し、作品を制作する近藤拓丸。今回は、3DCCソフトで作った空間をプロジェクターで投影し、その空間の中に、同じく3DCGソフトで作ったオブジェクトを描いた絵画作品を設置した。鑑賞者は、近藤が作り上げた3DCG空間の中に迷い込みながら、現実のキャンパスに現実のアクリル絵の具で描いた3DCGのオブジェクトと対峙することになる。コンピューターの世界と現実の世界を行き来する絵画体験。



『まつりのあと』2023/キャンパスにアクリル

石原雅也

作家の石原雅也が暮らす佐賀の私立図書館では誰でもが知るような名画の複製画の貸し出しを行なっているという。その利用方法について常々疑問を抱いていた石原は、そこから数枚を借り、黄金町まで自身で運んでくることにした。そして黄金町での滞在期間の間に、それぞれの絵画と縁のある場所に、複製絵画を背負いながら訪れ、自らの背中を舞台とした一時的な展示を行った。黄金町の展示会場ではその時の記録映像とともに借りてきた複製絵画が陳列されていた。複製による聖地巡礼の旅。



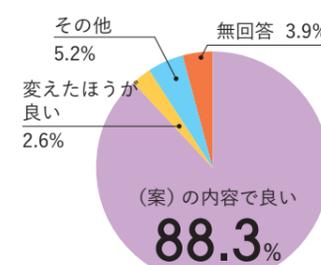
『ある画の可能性』2023/佐賀市立図書館で借りた複製画

1 地区計画の方針について

地区計画の方針は、まちが目指す方向を皆で共有することで、これに沿ったまちづくりを誘導するものです。

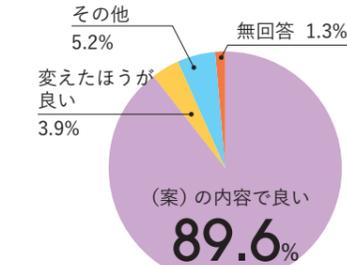
①地区計画の目標(案)について

まちづくりの経緯とまちの目指すべき目標像を示した案です。



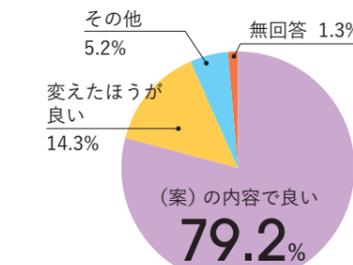
②土地利用の方針(案)について

地区計画の目標を実現するための土地利用の方針案です。



③建築物等の整備の方針(案)について

建築物の考え方を共有し、誘導するものです。

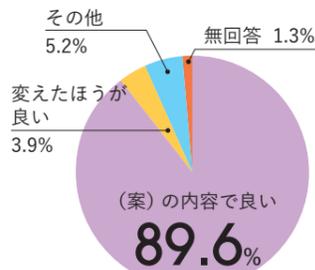


2 地区整備計画について

地区整備計画で具体的に記載された建築物等のルールには強制力があり、内容に合致しないと建築確認が受けられません。

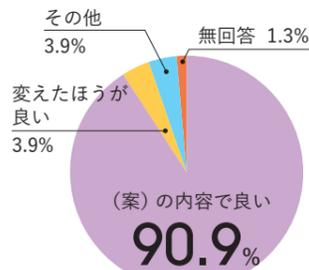
①建築物の用途制限(案)について

「マージャン屋、パチンコ屋、場外馬券売場など」「キャバレー、ナイトクラブ、ダンスホールなど」「ソーブランド、ストリップ劇場、ラブホテルなど」の具体的な用途を制限する案です。



②建築物の形態意匠の制限(案)について

建築物の外観は美観を保つため「色彩または装飾について十分配慮する」という抽象的な表現で案を作成しました。



千原真美

site-Aギャラリーの壁を使い作品を展開した千原真美。展示された作品のタイトルにはどれも「風景」という言葉が入っているのだが、どこかの特定の風景が描かれているようには到底思えない。画面を構成するのはキャンパスやキャンパスの切れ端、透明の板や糸くずなど。そうした様々な要素がコラージュされ、画面にバランスやリズムを生み出している。画面といっても千原のそれは、四角とは限らず、そこどころが土台であるはずの壁それ自体に直接絵の具が塗られて拡大していく。「絵画とは」「風景とは」を軽やかに問いかける「風景画」。



『風景#32』2021 ミクストメディア

牧園憲二×手塚夏子

精査なりサーチをもとに制作を行う牧園憲二とコンテンポラリーダンサーの手塚夏子という今回の展示のために結成された異色のコンビ。展示会場では、SSCCという会社のプロモーション映像が繰り返し流されているのだが、その内容をじっくり聞いてみても、もっとものようなことを言っているようで、実際のところ何の会社なのか判然としない。種明かしをすれば、使われている言葉は全て、社会活動を行う慈善団体のHPから切り抜いてきた単語を並び替えただけのもの。それっぽい言葉を羅列するだけで浮かび上がってくる「良さそうな」活動の「イメージ」。会場での手塚による会社紹介のパフォーマンスのリアリティの高さにも背筋が凍る。

